# 増補 親鸞聖人真蹟集成

全十巻

親鸞聖人七百五十回忌記念出版
後援／真宗教団連合

法藏館

# 刊行のことば

昭和四十八年（一九七三）の親鸞聖人ご生誕八百年・立教開宗七百五十年を記念して小社から刊行された『親鸞聖人真蹟集成』（全九巻）は、当時の真宗教団および研究者に高い評価を受けました。このたびはその復刊を望む読者の強い要望もあり、平成二十三年（二〇一一）の「親鸞聖人七百五十回御遠忌」を迎えるにあたり、その記念出版として『増補親鸞聖人真蹟集成』（全十巻）を刊行するものである。

この増補版の内容は、基本的には初刊本全九巻を踏襲し、初刊本で漏れた真蹟やその後に発見された真蹟を集成した「補遺」篇を加え、全十巻本として刊行するものである。また、各巻の解説も初刊本の解説をそのまま掲載するが、その間三十年の研究成果に新知見があった場合には補説として追加することとした。その他、初刊本では、第一・二巻所収の『教行信証』（坂東本）のみが朱筆の復元された二色刷であったが、増補版はさらにこれに加えて汎用性の高い第三巻所収の『三帖和讃』と第七巻所収の『観無量寿経註』『阿弥陀経註』も朱筆の確かめられる二色刷として便宜を図った。

このたびの真蹟集成の刊行は、真宗教団、親鸞・真宗研究者をはじめ、多くの一般読者に裨益するところまことに大なるものがあると思われる。そして真宗寺院の寺宝としても座右にそなえていただくよう願う次第である。

二〇〇五年初夏

法藏館

## 編集委員紹介

**赤松俊秀**（あかまつとしひで）（一九〇七～一九七九）
北海道に生まれる。三一年京都帝国大学文学部卒業。京都大学教授などを務める。
主要著書は『親鸞（人物叢書）』『鎌倉仏教の研究』ほか。

**藤島達朗**（ふじしまたつろう）（一九〇七～一九八五）
島根県に生まれる。二九年大谷大学卒業。島根県円浄寺住職、大谷大学教授などを務める。
主要著書は『恵信尼公』『日本浄土教史の研究』ほか。

**宮崎圓遵**（みやざきえんじゅん）（一九〇六～一九八三）
和歌山県に生まれる。二九年龍谷大学史学科卒業。龍谷大学教授などを務める。
主要著書は『初期真宗の研究』『真宗書誌学の研究』ほか。

**平松令三**（ひらまつれいぞう）（一九一九～）
三重県に生まれる。四一年京都帝国大学文学部史学科卒業。現在、高田本山専修寺宝物館主幹。初刊に引き続き増補版の編集を務める。
主要著書は『親鸞真蹟の研究』『親鸞（歴史文化ライブラリー）』ほか。

**名畑崇**（なばたたかし）（一九三三～）
岐阜県に生まれる。六一年大谷大学大学院博士課程満期退学。現在、大谷大学名誉教授、岐阜県養泉寺住職。増補版の編集を務める。
主要論著は『本願寺の歴史』『蓮如上人初期の教化』ほか。

清淨歡喜智慧光　不斷難思无稱光
超日月光照塵刹　一切群生蒙光照
本願名号正業　至心信樂願為因
成等覺証大涅槃　必至滿足願力故
[redacted]　如來所以興出世
唯說[redacted]
五濁惡時群生海　應信如來如實言
能發一念喜愛心　不斷煩惱得涅槃
凡聖逆謗齊回入　如衆水入海一味

＊口絵見本（第１巻「顕浄土真実信文類三」）・拡大

浄信御房御返事　重文　専修寺蔵
いまこせんのははに
ひたちの人々の御中へ　西本願寺蔵
西本願寺蔵

**第五巻　第7回配本**

西方指南抄　上・中（本・末）　国宝　専修寺蔵

**第六巻　第8回配本**

西方指南抄　下（本・末）　国宝　専修寺蔵

**第七巻　第4回配本**

観無量寿経註①　国宝　西本願寺蔵
阿弥陀経註②　国宝　西本願寺蔵
裏書　①②
浄土論註　上・下　西本願寺蔵

大般涅槃経要文・業報差別経文　重文　専修寺蔵
信微上人御釈　西本願寺蔵
烏龍山師並屠児宝蔵伝　西本願寺蔵
四十八願文断簡　慈雲寺蔵
第十一・十二・十三願文　常円寺蔵
第十七願文　手塚大制蔵
第十八願文　本誓寺
第三十三願文
皇太子聖徳奉讃断簡　光照寺蔵
表紙　光源寺蔵
第十五首　龍谷大学蔵
第十六首　某氏蔵
第二十五首　大谷大学蔵
第三十首　真教寺蔵
第三十二首

道綽略伝　西本願寺蔵
法然上人御消息（九条殿北政所あて）　専修寺蔵
法然上人御消息（大子女房あて）表紙　専修寺蔵
善導大師五部九巻（木版本）表紙　専修寺蔵
皇太子聖徳奉讃 第七首　勝楽寺蔵
皇太子聖徳奉讃 第七十三首第四行断簡
本縁経要文　専精寺蔵
三往生文断簡　専修寺蔵
往還回向文類断簡　満性寺蔵
唯信抄（一念トイヘルハ……称我名号）　本証寺蔵
大集経・涅槃経文　南光寺蔵
豊沢弘太良蔵
などを予定

＊配本順は変更する場合があります。
＊第一～九巻の所蔵者は、昭和四十八年刊の初刊本のままとなっております。

# 推薦のことば

浄土真宗本願寺派教学伝道研究センター所長、前龍谷大学学長
上山大峻

## 「真蹟」を通して聖人の謦咳にふれたい

この度、『親鸞聖人真蹟集成』九巻が、新発見の「道綽伝」などの真蹟を収録、また『教行信証』『三帖和讃』、観経・阿弥陀経『集註』を二色刷にして朱筆の書き入れを鮮明にし、さらに最新の書誌学的研究成果を解説に加えるなどして、全十巻として三十年ぶりに再刊された。

親鸞聖人は晩年、その究められた浄土真宗の神髄を自筆によって多く残された。しかし、それらはいずれも貴重書で簡単には拝見できないものばかりである。それを丹念に尋ねて撮影し、その殆どを研究者の座右にする夢を実現したのが『親鸞聖人真蹟集成』であった。いまは亡き私の父が、『集成』を購入し「やはり真蹟本で読むと、違う。聖人にお会いするようだ」と押し頂いて拝読していた姿が思いだされる。それがその後の知見や新発見資料を加えて新装再刊されるという。まもなく聖人七百五十回大遠忌をお迎えする今、聖人のあの雄渾な筆致を通して、あらためて聖人の謦咳にふれたいと思うところである。

真宗大谷派教学研究所所長
前大谷大学学長
小川一乗

## 聖人の教えに直入できる『真蹟集成』

三十年前、法藏館から『親鸞聖人真蹟集成』全九巻が上梓され、その後同書は高い評価を受けている。それまでは聖人の著述や真筆は分散して秘蔵されているのが現状であったにもかかわらず、様々な困難を乗りこえてそれを網羅、集成して公刊したのであるから、出版界の快挙でもあった。その後も唯一の親鸞聖人の真蹟集成となって現在に至っている。

来る平成二十三年には親鸞聖人の七百五十回御遠忌をお迎えすることとなるが、その記念出版として同書の増補版全十巻本が、最新発見の真蹟が掲載される等多くの特色を以て刊行されることになった。この出版を機に、社会とともにある真宗教団としては親鸞聖人の真蹟が公開され、その教えに直入できることはまことに有意義なことである。

# 全巻内容・配本順

## 第一巻　第1回配本

鏡御影（口絵）　国宝　西本願寺蔵
顕浄土真実教文類　一（坂東本）　国宝　東本願寺蔵
顕浄土真実行文類　二（坂東本）　国宝　東本願寺蔵
顕浄土真実信文類　三（坂東本）　国宝　東本願寺蔵
顕浄土真実証文類　四（坂東本）　国宝　東本願寺蔵

## 第二巻　第2回配本

顕浄土真仏土文類　五（坂東本）　国宝　東本願寺蔵
顕浄土方便化身土文類　六（本・末）（坂東本）　国宝　東本願寺蔵

## 第三巻　第3回配本

三帖和讃　国宝　専修寺蔵
浄土三経往生文類　西本願寺蔵

## 第四巻　第6回配本

尊号真像銘文　略本　重文　法雲寺蔵
尊号真像銘文　広本（本・末）　重文　専修寺蔵
一念多念文意　重文　東本願寺蔵
書簡　十二通
いや女譲状　西本願寺蔵
わ□こせんへ　西本願寺蔵
かさまの念仏者のうたがひとわれたる事　重文　東本願寺蔵
覚信房御返事　重文　専修寺蔵
真仏御房へ　重文　専修寺蔵
慶信上書と御返事　重文　専修寺蔵
たかたの入道殿御返事　重文　専修寺蔵
浄信宛御返事　重文　専修寺蔵
しのふの御房の御返事　重文　専修寺蔵

## 第八巻　第9回配本

唯信抄　西本願寺蔵
唯信抄（略）（信証本）　重文　専修寺蔵
唯信抄（ひらかな本）　重文　専修寺蔵
唯信抄断簡　高山別院蔵・城端別院蔵・願入寺蔵・東本願寺蔵
唯信抄文意（正月十一日本）　重文　専修寺蔵
唯信抄文意（略）（正月二十七日本）　重文　専修寺蔵

## 第九巻　第10回配本

本尊影像讃銘　西本願寺蔵
六字名号③　専修寺蔵
八字名号④　専修寺蔵
十字名号⑤　妙源寺蔵
十字名号⑥　専修寺蔵
十字名号（黄地）⑦　専修寺蔵
十字名号（紺地）⑧　専修寺蔵
十字名号　専修寺蔵
六字名号　東本願寺蔵
名号讃銘　③～⑧
安城御影　9　国宝　西本願寺蔵
讃銘　⑨
二尊大悲本懐　東本願寺蔵
名号裏書　④～⑥
見聞集　重文　専修寺蔵
浄土五会念仏略法事儀讃
涅槃経
聖覚法印表白文
御念仏之間用意聖覚返事
或人夢
般舟讃文
第三十七首　徳応寺蔵
第四十五首　東本願寺蔵
第五十四首　本證寺蔵
第六十一首　岸部武利蔵
第六十一首　岸部武利蔵
第六十五首　本誓寺蔵
第六十六首　本誓寺蔵
第七十二首後半第三句五行　岸部武利蔵
第七十一首後半第四句五行　岸部武利蔵
三骨一廟文　専光寺蔵
その他
浄肉文　専修寺蔵
六角堂夢想偈文　専修寺蔵
曇摩伽菩薩文　専修寺蔵
数名目・十悪　専修寺蔵
晨旦国十四代　専修寺蔵
須弥四域経文　専修寺蔵
正像末和讃　妙光寺蔵
和讃断簡　日野環蔵
聖覚法印表白文　法専寺蔵
唯信抄断簡　最乗寺蔵
涅槃経文　龍谷大学蔵
聖教断簡　本泉寺蔵
聖教断簡　浄興寺蔵
法然一人七箇条制法　署名（原寸）　重文　二尊院蔵
宗祖御筆蹟集（影写本）　大谷大学蔵

## 第十巻　第5回配本

唯信抄（信証本）　重文　専修寺蔵
唯信抄文意（信証本）　重文　専修寺蔵
唯信抄　妙安寺蔵
安城御影讃銘　重文　東本願寺蔵

# 好評発売中

## 二〇〇五年七月刊行開始（隔月刊）

【特色】

◆**原本からの直接撮影**　全巻すべて原本から直接に撮影し、原本の筆致や風格を再現するために、製版・印刷にも細心の配慮を重ねた。

◆**初公刊の真蹟や断簡も収録**　『西方指南抄』『見聞集』などの全貌をはじめて公刊し、『皇太子聖徳奉讃』のような断簡として散在している真蹟も収録。

◆**「補遺」篇の増補による親鸞聖人真蹟の決定版**　初刊本で漏れた真蹟やその後に発見された真蹟を新たに収録した。

◆**『教行信證』（坂東本）の朱筆の復元**　丹山本（大谷大学蔵）を参考にして、関東大震災により消失した〝なぞの訓点〟といわれた朱筆の復元につとめた（二色刷）。これは聖典解釈への画期的な試みであるとともに、国語学研究の進展に大なるものがある。

◆**朱筆の確認可能な二色刷**　汎用性を考慮して『三帖和讃』（第三巻所収）、『観無量寿経註』『阿弥陀経註』（いずれも第七巻所収）は、朱筆を確かめられる二色刷とした。

◆**丁寧な解説**　親鸞聖人研究第一人者による所収真蹟の丁寧な解説を付した。

◆**最新の研究成果を反映**　初刊本の「解説」に加えて、各巻に初刊本刊行後の新知見を新たに書き下ろした「補説」を付した。

◆**活用の利便性**　『教行信證』（坂東本、第一・二巻所収）の欄外に、参考として『浄土真宗聖典―注釈版第二版―』（浄土真宗本願寺派）、『真宗聖典』（真宗大谷派）の該当頁を付した。

【体裁】　A5判／上製クロス装貼函入／平均四〇〇頁

【価格】　セット価格　二六二、五〇〇円（税込）　※分売不可

表示価格は税込（5%）です。


法藏館
〒六〇〇―八一五　京都市下京区正面通烏丸東入
TEL〇七五（三四三）五六五六　FAX〇七五（三四三）〇四五八
homepage http://www.hozokan.co.jp　e-mail info@hozokan.co.jp


05071530000